

## 郷土愛數へ歌

小川郷 吉岡獨歩

一つとや人々互に睦み合ひ睦み合ひ堅城の郷士を  
愛しませう愛しませう

二つさや二箭山や新舞子その外無数の山水  
三つさや水より自由に土地肥沃て土地肥沃て  
四つさや夜盃揃り出す膳盛の膳盛の石炭粘土も無  
五つさや磐城七瀬漁業の花が咲く歴史の花が咲く歴史  
六つさや昔のまゝのた龍井嶽闊佛輝や闊仰  
七つさや井嶽闊佛輝や闊仰  
八つさや見れば來て見れば古き歴史の花が咲く歴史の花が咲く歴史  
平町平町發展させたい商工業  
九つさや高野玉山湯本町湯本町温泉の惡みも有難  
十とやや有難や  
十一とや共に勵みて明かる  
十二とや明かるくて住みやすく  
十三とや金がなき爲には故方が  
貧しき者ひ叫び  
(一青年)  
食しきが爲に...  
何事もこちなりければな  
弱き者!  
それが俺達の代名詞か?  
併し...  
金がなき爲には故方が  
いののか?  
今に見ろ!  
この細、腕が頭が  
何をくるか?  
金持は  
悪魔だ!吸血鬼だ!  
貴様達が人間なら  
生きてゐるのだ  
いちぢる勝手にしる  
貴様達が人間なら  
弱い者の血を吸ひ肉を喰  
つて亦人間だ  
死んではいな

三つとや水より自由に土地肥沃て土地肥沃て  
新舞子その外無数の山水  
美山水美

二つさや二箭山や新舞子その外無数の山水  
三つさや水より自由に土地肥沃て土地肥沃て  
新舞子その外無数の山水  
美山水美

赤鞆安兵衛

講談

講

東京 桃川 猪二演

村田 月光鑑

其處へキナリ飛込んだーの合の宿で樂屋などは二けたー是々左様の場合に

は位々面をしめそろに難う存します。孫助旦那様

手に握つた五夕の鳥目を眺から能く利く樂だ、尊品で不

思つたのか、其體立つて奥るによつて粗末に致さぬ様

をして居やかつて、貸しての武家が...是々此樂を

へ入つて仕舞つた、安之助に這はせ...へ...有

れられないもんだ、ねど、遣はせ、是れはしやくには

いこい、番頭もうるさいと能く利く樂だ、尊品で不

思つたのか、其體立つて奥るによつて粗末に致さぬ様

をして居やかつて、貸しての武家が...是々此樂を

へ入つて仕舞つた、安之助に這はせ...へ...有

れられないもんだ、ねど、

